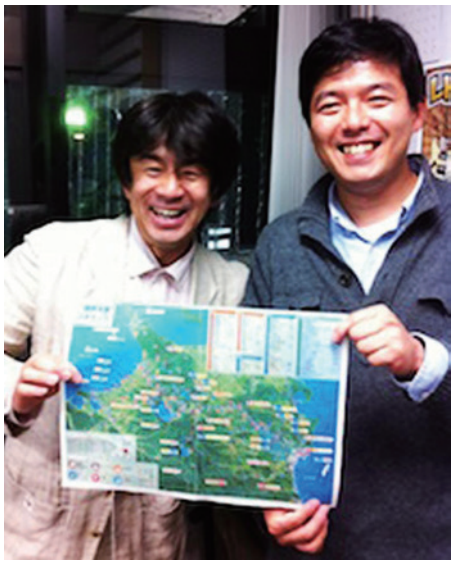
釧網本線ジオマップのご紹介

石川孝織[1)]・境　智洋[2)]・釧網本線ジオマップ制作委員会[3)]・七山　太[4)]

1．はじめに

道東の地を訪れたことのない，もしくは鉄道に関心のない皆様は，釧網（せんもう）本線の名前を聞いてもどこの話かわからないと想像する．釧網本線は道東の中核都市である釧路市とオホーツク沿岸の拠点都市である網走市を結ぶ全線非電化単線のローカル線であり，1931（昭和 6）年に全通した．国土交通省鉄道局監修の鉄道要覧や JR 線路名称公告では東釧路駅が起点，網走駅が終点とされており，列車運行上は網走から釧路に向かう列車が下りである．この間の駅数は 27，営業距離は 166.2 km である．かつては急行「しれとこ」などの優等列車が運行されていたが，現在は普通と快速列車が運行されるのみである．

ご多分に洩れず，この路線も利用者数は減少傾向であり沿線自治体が中心となって釧網本線利活用推進協議会を立ち上げて，地道な利用促進活動を行っている．その一環として，2012 年 3 月に釧路市立博物館，北海道教育大学釧路校，北海道弟子屈（てしかが）高等学校，釧路市こども遊学館の学芸員や教職員が連携して釧網本線ジオマップが刊行された．これを基に更なるジオ鉄企画が展開されているので，以下に皆様にご紹介したい（第 1 図）．



第 1 図　ジオマップ制作を企画した境（左）と石川（右）．

2．釧網本線ジオマップとは？

釧網本線ジオマップは A3 サイズで，両面カラー印刷されている（第 2 図）．地図デザインは北海道地図株式会社が行った．

釧網本線は，沿線の自然資源を開発する目的で敷設された経緯を持ち，そのため，美しい景観や温泉，多くの観光資源にも恵まれ，身近にジオ（地球）を感じることができる路線と言える（道東の自然史研究会，1999）．

ジオマップの表面は釧網本線を中心とした道東地域の鳥瞰図（東南東の方角，俯角 50°，高さ強調 3 倍）のジオマップがカラーで示されており，このマップ上に露頭，火山，温泉，湖沼，湿原，海岸線など，地球を感じるポイントをアイコンで表示している．また，温泉，湧泉，博物館・資料館などの場所を番号で示している．さらに沿線の JR の駅に設置されている，みどりの窓口，レストラン，駅弁，レンタカー，レンタサイクル，足湯，記念スタンプも記載されている．

裏面には釧網本線沿線の 21 のジオサイトについて，写真入りで解説文を付けており，さらに最寄りの JR の駅も記載されている．ミニミニ解説は地質学の専門用語で書かれており，一般の方が読まれても難しく思われるかもしれないが，ホンモイ岬の柱状節理，オホーツク海の流氷，濤沸（とうふつ）湖と周辺の砂丘，小清水海岸の鳴き砂，屈斜路火山と摩周火山起源の火砕流堆積物，摩周湖の伏流水の作る神の子池，斜里岳・知床半島，摩周湖・摩周岳，硫黄山（アトサヌプリ），アトサヌプリの硫黄鉱山と釧路鉄道，屈斜路湖（和琴半島・藻琴山），川湯温泉・摩周温泉，雌阿寒岳・雄阿寒岳・阿寒湖周辺，シラルトロ湖・塘路（とうろ）湖・達古武（たっこぶ）湖，

1）釧路市立博物館
2）北海道教育大学釧路校
3）釧網本線ジオマップ制作委員会
（石川 孝織・菊池 亮・境 智洋・桧物 聖・星 匠・宮嶋衛次）
4）産総研 地質情報研究部門

キーワード：釧網本線，ジオマップ，ジオサイト，釧網本線利活用推進協議会，道東，知床国立公園，阿寒国立公園，釧路湿原国立公園

第２図　釧網本線ジオマップの表（上）と裏（下）.

この図は GSJ 地質ニュースへの掲載に限って使用許諾を受けており，CC-BY の対象外です．© Hokkaido-Chizu Co.,Ltd. © Takaori Ishikawa

第 3 図　2013 年 1 月 14 日に実施された「釧網本線ジオ・トレイン」のチラシ.

第 4 図　釧路駅に停車中の「釧網本線ジオ・トレイン」. 中央下が岡田　弘氏.

東釧路貝塚，根室段丘・釧路段丘，日本最大の釧路湿原と釧路川，1920 年の大洪水と新釧路川の開削，海跡湖である春採湖，釧路炭田，鮮新統古澤（こたん）層の貝化石の鉱山，について詳しく記載されている.

なお，釧網本線ジオマップの入手希望については，下記の釧路市立博物館の石川宛にお問い合わせ頂きたい．返信用切手 80 円をご同封頂ければ，先着 50 名に限り，無償で配付可能である.

〒 085-0822 釧路市春湖台 1-7　釧路市立博物館
石川孝織（学芸員）
電話：0154-41-5809，メール：i-takaori@nifty.com

3．今後のジオ鉄企画の展開

釧網本線は車窓からジオを感じられる路線であり，観光という視点ではなく，“地球探訪”という視点で車窓を見るとこれまでとは違った面白さを発見できそうである．是非読者の皆様も釧網本線にご乗車頂き，ジオマップを片手にひとつひとつの駅で途中下車してジオサイトを散策して頂ければ幸いである．またジオマップ刊行を契機として，沿線自治体や有志の活動がさらに発展し，世界遺産に指定された知床を戴く知床国立公園～摩周・屈斜路・阿寒の火山を戴く阿寒国立公園～ラムサール条約で保護された釧路湿原国立公園を結ぶ釧網本線ジオパーク構想まで発展することを，筆者一同，心から期待したい.

その一環として，2013 年 1 月 14 日には釧路駅～川湯温泉駅間で団体列車「釧網本線ジオ・トレイン」が釧網本線ジオマップ制作委員会によって企画された（第 3 図）．道内の火山研究で著名な岡田　弘氏(北海道大学名誉教授；第 4 図）を講師として車内に迎えて実施されたこの企画は無事成功を収めたことを報告し，本稿の結びとしたい.

文　献

道東の自然史研究会（1999）地質あんない道東の自然を歩く．北海道大学図書刊行会，札幌，268p.

ISHIKAWA Takaori, SAKAI Chihiro, Geomap productive committee around JR Senmo Line and NANAYAMA Futoshi (2013) Introduction to the Geomap around JR Senmo Line, eastern Hokkaido.

（受付：2013 年 1 月 16 日）